

あいち かれ 茨城

2021.3 Vol.113

CONTENTS

- 1 **協会事業**
第30回外国人による日本語スピーチコンテスト
- 2-3 **GLOBAL VIEW**
茨城県地域日本語教育の体制づくり推進事業 スタート
- 4-5 **交流の広場**
SDGs未来都市つくば
わが町の外国人リーダー／Young Eyes／Across Culture
- 6 **地球だより 県だより**
自粛生活に笑顔:マーケット
米国・シンガポール向けに現地ECサイトで県産品を販売しています!
- 7 **For You** お知らせ
- 8 **Said & Did**

第30回外国人による日本語スピーチコンテスト



出場したスピーカーの皆さん(発表順)



茨城県知事賞 & 日本語ボランティア賞
アルメイダアパロス ペルラ ミチエルさん



茨城県議会議長賞 & 若人賞
姜 嬌さん



茨城県教育長賞
ボロベックズ サイカルさん



ひばり賞
ノルジマー・オウランバイガルさん

オンライン開催に変更して実施することとなりました。司会進行はライブで行い、スピーチは事前収録したものをYouTubeライブにのせて配信しました。各賞の審査は、厳正を期するため審査委員7名が当協会に来て行いました。特別賞(若人賞、日本語ボランティア賞)は、県内の高校生ならびに日本語ボランティアの皆さんが、それぞれの場所で配信動画を視聴し審査していただきました。

例年通りとはなりませんでした。出場者、審査関係者、今年はお集まりいただけなかった事業ボランティアなど協力者の皆さん、協賛企業、その他関係各位のご理解とご協力により、コンテストを無事終えることができましたこと心から感謝いたします。

出場者の皆さんには事前撮りのため当初より数日早く、かつ無観客でスピーチを披露していただくことになりましたが、例年と遜色なく、しっかりとした口調で日本の生活の中で自らの体験から発表してくださいました。その思いは画面経由であっても観た方に強い印象を与え、国際理解を深める良い機会となったに違いありません。

上位入賞者は以下の通りです。

賞	受賞者・タイトル
茨城県知事賞 日本語ボランティア賞	アルメイダ アパロス ペルラ ミチエル(メキシコ出身) 「『お姉さんからもらってね』」
茨城県議会議長賞 若人賞	姜 嬌(中国出身) / 「同じ空の下で」
茨城県教育長賞	ボロベック クズ サイカル(キルギス共和国出身) 「もう一つの言葉、手話言語」
ひばり賞	ノルジマー オウランバイガル(モンゴル出身) 「おいしいちゃんおばあちゃん孝行」



審査委員による審査の様子

GLOBALVIEW

特集

茨城県地域日本語教育の体制づくり推進事業 スタート

茨城県の在留外国人数は令和2年6月時点で70,806人です。コロナの影響で新規入国者が一時的に減りましたが、アフターコロナでは再び増加するでしょう。多様な背景をもつ外国人、同じ地域に住む日本人が参加する地域日本語交流は、相互理解の促進と、誰もが社会参加を実現できる場という機能が期待されます。県内の地域日本語教室に関する現況と県の事業概要をみてみましょう。



地域日本語教室の現況～日本語ボランティア教室対象のアンケート調査結果～

茨城県国際交流協会では約3年ごとに日本語ボランティア教室対象のアンケート調査を実施しています。最新となる令和2年9月時点、県内33市町村で60を超える団体が100教室以上の教室を開いています。なお、秋以降、かすみがうら市、下妻市に新しく教室ができました。

教室ごとの学習者数は数名～数十名と規模は様々です。学習者の特徴も地域で異なります。就労者が多い地域では夜間や週末を中心に教室が開催されているようです。

コロナ禍、多くの教室が休講を余儀なくされました。一部、オンライン会議システムなどを使ったリモート学習が行われています。

体制づくりの事業概要

今年度県からの受託事業として茨城県国際交流協会が実施した内容についてご紹介します。

「県内日本語教室とのネットワークづくり、運営支援」

(1) 総括コーディネーターの設置

地域日本語教育コーディネーター等と連携を取りながら事業の総括を行います。
茨城県国際交流協会職員が担当します。

(2) 日本語教室等関係者の連絡会議(表1参照)

日本語教育に係る行政情報の伝達や情報交換、連携体制の構築・強化等を図ります。

(3) 新規学習支援者の開拓講座

地域日本語教育人材の確保に資するため、新たな日本語学習支援者の開拓講座を実施します。

(4) 地域日本語教育コーディネーターの活動による課題把握と解決策提示、県施策への提言(表2参照)

文化庁主催の「地域日本語教育コーディネーター研修」受講者のうち活動が可能な人に、プロジェクトワーク*等を通して地域の課題を抽出し解決に向けた取組を行ってもらいます。

*プロジェクトワーク：地域日本語教育コーディネーターが地域の課題を自ら考えて、関係機関や日本語学習支援者等と連携を図りながら課題解決に向けて取り組む活動



県、協会等との打ち合わせの様子

表1 日本語教室等関係者の連絡会議(地域ごとに開催 ※感染防止対策のため原則オンライン会議に変更)

県内自治体、日本語ボランティア教室、その他関係者を対象に、県から地域日本語教育の体制づくりの説明、各地域を担当する地域日本語教育コーディネーターの紹介、地域日本語教育に関連した講師による基調講演、地域日本語教育コーディネーターによる今年度の実践活動状況の発表(課題認識の共有/事例の紹介等)を行いました。

地域	日時	基調講演	地域日本語教育コーディネーターによる発表テーマ	各地域を担当する地域日本語教育コーディネーター
県南	11月17日(火) 13:30～16:00	山田 泉氏(元法政大学教授) 「地域日本語教育活動からみえてくる共生社会のすがた」	空白地における地域日本語教室の 新規立ち上げ支援について	宮本 敏弥(守谷市国際交流協会事務局長)、 丹羽 寛子(龍ヶ崎国際交流協会会長・日本語ボランティア部会長)
県北・県央	11月20日(金) 13:30～16:00	伊東 祐郎氏 (国際教養大学専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科教授) 「多文化社会の中の日本語教育を考える」	地域の日本語教室にできること 一居場所つくりと学習の場づくりの 両立を目指して	仙波 美哉子 (ひたちなか市国際交流協会理事)
県西	12月9日(水) 13:30～16:00	岩田 一成氏(聖心女子大学現代教養学部教授) 「地域日本語教育とやさしい日本語」	坂東市の保育園、幼稚園、認定こども園 における、やさしい日本語を広める活動 について	内田 ちひろ (武蔵浦和日本語学院非常勤講師)
鹿行	12月17日(木) 13:30～16:00	米勢 治子氏(東海日本語ネットワーク副代表) 「持続可能な地域日本語教育を目指して」	日本語教室を次へつなげていくための対 話型活動を取り入れた初級日本語ボラ ンティア養成講座 一神栖市国際交流協会日本語教室での 取り組みから	山田 野絵 (日本語ボランティアグループ・オルビス代表、 筑波大学非常勤講師、茨城キリスト教大学兼任講師)

参加者の声

●どの地域でも外国人児童生徒への対応に苦慮しており、迷いながら指導を進めている中で、いろいろな機関と連携しながら進めていくことが大切。児童生徒の親とボランティアとの連携が大事。

- 外国人にとっての居場所づくりだけでなく、日本人にとってもそうであるということに感銘を受けた。
- どの発表も参考になった。今回のような情報共有(自治体の取り組みなど)が非常に役に立つので、情報の共有の場があるといい。
- 対話型での新しい教室を立ち上げるが、学習者が対話型に満足されないときは、米勢先生がおっしゃったように教室の理念の共有が学習者との間で必要だと分かった。

表2 文化庁地域日本語教育コーディネーター向けフォローアップ研修

地域日本語教育コーディネーターとして体制づくり事業に参加していただくにあたり、地域日本語教育に関する最新情報の提供、意見交換などのフォローアップ研修を実施しました。なお、第1部については、これまで当協会の日本語教室支援事業を支えてくださっている当協会日本語教育アドバイザーの皆さんもお招きしました。

対 象	日 時	内 容
文化庁研修受講者、 当協会日本語教育アドバイザー	8月11日(火) 第Ⅰ部 10:00～15:00 第Ⅱ部 15:20～16:00	＜第Ⅰ部＞ 北村 祐人氏「国内の日本語教育の動向と今後の展望」、伊東 祐郎氏「地域日本語教育の展望」、 意見交換会「地域日本語教育の方向性と課題に関する意見交換」 ＜第Ⅱ部＞ 地域日本語教育コーディネーター会合（地域日本語教育コーディネーターの役割について、今後について）

参加者の声

- (外国人学習者の声として)地域の日本語教室は「居場所」であって、「日本語教育」の重要度は低いという話に感銘を受けた。
- 既存のボランティアの方々と対話型の活動をするボランティアの方々をどうつないでいくかが一番の課題。

新規学習支援者の開拓講座 「新しい茨城 下妻・坂東のための日本語支援を考える会」について

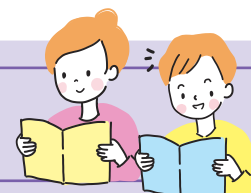
講座コーディネーター 羽鳥 愛

「日本語支援」というと「外国人に日本語を教えること」を皆さんイメージされると思います。しかし、地域日本語支援で「何を目標として日本語を教えるのか」考えると、多文化共生、相互理解、地域づくりといった視点こそ必要です。本講座では外国人市民に寄り添う支援者となることを目指し、グループでの話し合いや事例紹介、講義を通して多文化共生社会のあり方を考えました。受講者からは「今までの日本語教室に対する新しい取り組みが理解できた。法改正により日本語教室への関わり方に変化が生じて来ていると認識できた」などの感想が寄せられました。

(1月17日～2月26日の期間中に全5回の連続講座を下妻と坂東の2回開催。コロナ感染拡大のため対面からオンラインに変更して実施。受講者総数42名(両会場合計))



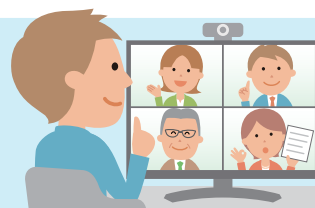
講座の広報(チラシ)



新規開拓講座(ホストの様子)

年度報告会

2月22日(月)、今年度の事業を締めくくる全体報告会を開催しました(オンライン)。自治体、市町村国際交流協会、日本語ボランティアなど約50名が参加しました。事業概要説明、地域日本語教育コーディネーター5名による活動報告、県の発表、意見交換を行いました。



体制づくりは外国人のための日本語指導を目指すのではなく、国籍・文化の枠を超え、個々の人々が住民として尊重され仲良く暮らせるように、誰もが住みやすい多文化共生のまちづくりを最終目標としています。多様な立場の多くの県民の皆さんにご理解とご協力をいただき作り上げるのが大切だと考えます。

これまで関わってきた方、初めて知った方、外国人の皆さん、興味と意欲がある一人ひとりの力で、私たちの地域社会を居心地良い場所とするため、ぜひ関心をお寄せいただき、一緒に手をつないでいきましょう。

新たな取り組みの紹介

水戸市国際交流センターでの日本語学習支援～ゼロからはじめる日本語学習～

水戸市国際交流センターでは、令和2年度から「日本語プレ初級クラス」を開催しています。日本語を勉強したことがない入門レベルの外国人市民を対象に、有資格の日本語教師のもと10回の集中コースで日本語を学ぶ教室です。

当センターでは、長年にわたり市民ボランティア団体が日本語教室を開講し、学習支援を続けてきました。しかし、入門レベルの日本語学習支援には技術や経験を要し、ボランティア一人ひとりの負担が大きいことから、経験豊かなプロの指導者による入門クラスの開設が求められてきました。

一方で、水戸市では、「日常生活を送るために必要な最低限の日本語習得ができる機会を、自治体主導で提供するべき」という方針を打ち出し、当センターにて昨年10月にプレ初級クラスを開講することになりました。

コロナ禍で、日本語を一から学びたい人がどのくらい集まるかと思われましたが、約20名の外国人住民からの申込みがあり、受講者は、ひらがなを読んだり、日常のあいさつ、簡単な自己紹介などができるようになりました。コースを修了した学習者は、この後も地域の日本語教室で学び続けます。

当センターでは、今後もさまざまなニーズに合わせ、継続的なプレ初級クラスの開催を予定しています。日本での暮らしがより豊かになるきっかけとして、日本語がちょっとできることによる安心感を多くの外国人市民が感じられるよう、関係団体や市民ボランティアと連携しながら日本語学習支援の充実化を図ってまいります。

※日本語プレ初級クラスに関する問合せは、(公財)水戸市国際交流協会まで。

公益財団法人水戸市国際交流協会

住所 水戸市備前町6-59(水戸市国際交流センター内)

TEL 029-221-1800 Eメール mcia@mito.ne.jp ホームページ <https://mitoic.or.jp/jp/>



SDGs未来都市つくば

つくば市政策イノベーション部持続可能都市戦略室

2018年6月、つくば市は内閣府より茨城県唯一の「SDGs未来都市」に選定されました。(2021年2月現在93自治体)

これは、経済・社会・環境の3側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域として選定されるもので、「つくばSDGs未来都市計画」を基に持続可能なまちづくりを進めています。

2019年4月には、さらにSDGsを市域に広めるために、「つくばSDGsパートナーズ」を発足しました。これは、「持続可能なまち」をつくばで実現するための、仲間づくりの場です。市民、企業、研究機関、NPO、行政などがそれぞれの知識、経験、想いなどを共有し、主体的にSDGsの達成に向けて取り組みながら、パートナーズのネットワークにより、その活動の幅を広げていくことを目指しています。JICA筑波やつくば市国際交流協会など国際的に活動する団体も会員になっています。詳細はポータルサイトをご覧ください。

2020年3月には、市の最上位計画であるつくば市未来構想及び戦略プランに、SDGsの理念を反映し、改定するとともに、つくば市が持続可能都市を目指すことを内外に示すため、「持続可能都市宣言」を発表しました。(英語版あり)

SDGsの理念を反映した戦略プランでは、基本施策として、「多様性をいかした誰もが活躍できる社会をつくる」を挙げており、SDGsの目標年である2030年の未来像として、「性別、国籍、年齢等を問わず、自身や他社の選択を尊重し合い多様性をいかす文化が地域に根付いています。」としています。SDGs未来都市として、このような社会の実現を目指していきます。



SDGs未来都市選定証授与式



SDGsに関するワークショップ



つくばSDGsパートナーズポータルサイト



SDGsの17のゴールとサークル

わが町の外国人リーダー

レ・バン・タンさん

水戸市在住(茨城県在住歴8年)/ベトナム社会主義共和国出身

タンさんをご紹介します

茨城大学の学生時代から日本ベトナム友好協会の活動に参加し、行事等の司会やボランティア活動を積極的に行い、県連の活動をサポートしてくれました。特にベトナム文化の紹介やベトナム人コミュニティと県連を繋ぐ仕事を積極的に行い、茨城県ベトナム人協会の設立や在茨城ベトナム人の支援活動を中心となっており、行っています。

現在はレストランを経営する傍ら、コロナ禍で困窮しているベトナム人の支援活動や、仕事で困っているベトナム人の相談活動、また、日本ベトナム友好協会茨城県連合会が主催する無料弁護士相談会の一員として通訳をはじめ弁護士、監理団体との連携担当として中心的役割を果たしています。

さらに、公立学校に通うベトナムの子どもと保護者の面談や公的機関での通訳をはじめ、県労働政策課との連携など、活躍の幅は広く、なくてはならない存在です。

タンさんがいてくれてベトナムの現状がよくわかり、県連の活動の幅も広がり、本当に感謝しています。タンさんありがとう！

日本ベトナム友好協会茨城県連合会

タンさんにお聞きしました

これまで活動してきてよかったこと、感じていることなどを教えてください。

日本ベトナム友好協会茨城県の皆さんと連携できて、自分たちだけではできないことができるようになり、たくさんの人との繋がりができました。また、ベトナム人の自分たちだけではわからないことを、いろいろと相談ができるので、とても安心して活動ができるようになりました。

困っているベトナム人や日本人のために働くことは、自分がやりたいことの一つでした。それは自分も多くの人に助けてもらって今があるからです。しかし、実際は自分の時間もなくなるし、とても大変なことでもあります。

でも、誰かが助かったり、「ありがとう」と言われると「協力してよかった」と嬉しい気持ちの方が大きくなり、また頑張ろうという思いになるのです。

これからも大変なことはあると思いますが、ベトナム友好協会や地域の皆さんと協力して、ベトナムの文化や料理を皆さんに伝え、皆さんに喜んでもらえる活動をしていきたいと思っています。

日本で生活している外国人の方々へのメッセージやアドバイスをお願いします。

絶対に不法滞在者にならないで下さい。それが僕の願いです。



日本語学校へ支援品を渡す(右から2番目)



無料弁護士相談で相談者の通訳をする(左)

YOUNG EYES

茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校 1年 岩崎 歩夢

ワールドキャラバン※で広がる「私の世界」

今回のワールドキャラバンを通して、異文化理解とは何なのかについて考えさせられました。

まず、外国人講師のトッドさんからは、ミネソタ州の生活文化を詳しく説明してもらい、日本との生活文化の違いを知ることができました。その中には、-20~30℃でも当然のように登校する学生や、住居売買へのハードルが低く、引っ越しなどで住まいを何度も変えることに驚きました。また、農業分野についての講義では、広大な耕地面積を支える大規模農業の重機などのハード面だけでなく、効率化を進めるソフト面の両面を知り、「質より量」のイメージのあったアメリカ農業の考えを、「質と量の両立」へと変える



アメリカにおける生活環境の紹介

きっかけとなりました。その他にも、その国独自の価値観から日本と異なる生活文化が見られました。世界を知ることは、私の持っている先入観や価値観を変えるきっかけになるのだと感じました。

次に、ファシリテーターの根本さんの講座では、異文化理解のきっかけとなる部分を教えてくださいました。私たちにとって外国の方と接する機会はほとんどなく、外国語というだけで身構えてしまいます。しかし、今回のワークショップでは言葉を発しない意思疎通により、言語とは一つの意味疎通のツールであり、その他の手段でも補うことができると実感しました。異文化理解の障壁は「言語」だと、勝手に壁を作っていたのは私自身なのだと考えさせられました。私の見方・考え方を変えることで、新しい発見や経験につながられるのだと思います。

最後に、このような機会をくださったトッドさん、根本さんに感謝申し上げます。これからは、日本以外の国々にも視野を広げ、より多くの人々と交流を深めていきたいと思っています。

※昨年12月、アメリカの生活環境の紹介や異文化理解のワークショップを体験したときの感想をお聞きました。



異文化理解のワークショップ



ここが違って、おもしろい!

Across culture

シリア・アラブ共和国

ムハンマド・ナジーブ
アルヘブラウィ

(シリア・アラブ共和国出身)
茨城大学 理工学研究科
博士後期課程
社会インフラシステム科学専攻

●シリアってどんな国?

シリアは中東に位置する国で、トルコの南にあります。私はアレppoの街に住んでいました。シリア北部にあるアレppoはシリア最大の街です。紀元前2400年に最初の王国が創られ、歴史的な建造物がたくさんありました。しかし今は、内戦によって大部分が壊れたままになっています。

私が住んでいた家は、400年前に建てられたものでした。大きな石で造られた立派な家でした。6つの部屋と大きなキッチン、まん中に広い中庭がありました。毎朝パン屋でパンを買い、私の家族12人で一緒に座って朝ごはんを食べました。10年前、私たちは他国への移住を選ばなければならませんでした。

●シリアと日本のここが違って(同じで?)おもしろい!

私の名前 ムハンマド・ナジーブの、ムハンマドは「良い」、ナジーブは「賢い」という意味です。日本語でいうと、私の名前は「良くて賢い」という意味になります。日本人の名前にも親の思いが込められています。私の祖国シリアでも同じです。

一方で、自然環境は大きく違います。山について言うと、私の国には、砂漠があり、砂と岩で覆われているため、山は黄色です。しかし、日本の山は、冬は緑と茶色、秋は黄色や赤ですが、春に桜が咲くとピンクになります。また、日本は海に浮かぶ島なので、川がたくさんあり分岐しているためか、日本人は魚が好きですが、私の国は大陸で鶏と羊を食べるのが好きです。

●将来の目標は?

私は茨城大学で博士課程を修了した後も、シリアの大学で研究を続けながら後進の教育に携わりたいと思っています。祖国シリアは、内戦で国土は疲弊し、厳しい環境に置かれています。私は、今なお復興を待ち望んでいる次世代の人達に、日本で学んだ技能や知識を伝え、祖国を再建する方法を教えたいです。幸せで安全・快適な生活を、子供や家族と安心して送れるような建物を提供していきたいです。



広島市にて



伝統衣装を着た友人がアラビアンコーヒーを注いでくれたときの一枚



自粛生活に笑顔：マーケット

篠原智子（イタリア、エミリアローマニャ州、チェゼナ市在住）

私の在住するイタリア、エミリアローマニャ州チェゼナ市は、アドリア海から15km、州都ボローニャから南に約80km、果物、ブドウ畑の広がる丘に囲まれた自然豊かな街です。

2020年始めからコロナに翻弄され続けていますが、それに負けずと、真冬でも全身すっぽり防寒着をまとったサイクリスト、一日に数回コースを変えながら散歩する人達、豊かな自然の力を借りながら、灰色の自粛生活をなんとか明るく、笑顔で過ごそうとする大勢の人達の姿が見られます。

それでもやはり、一番の心の癒しは食。そのために欠かせないのが、週2回街で開かれる、マーケットです。ヨーロッパでも主要な農業地域として知られるこの地方では、海の幸に加え、野菜、果物の栽培はもちろん、肉、小麦、パン、チーズ、卵、ワイン、生ハム、蜂蜜、オリーブオイル等も育て、作られ、街の住人は生産者直行の新鮮で質の良い食材を手頃な値段で購入することができます。

また、ここにやってくる人たちはほぼ皆常連客。食材を選びながら冗談を混じえながらの世間話に花が咲き、秘伝レシピーを教わったり、クリスマスシーズンには自家製ジャムやピクルス、乾燥パルチーニなどのプレゼントを頂いたり。

コロナの流行でがらりと変わってしまった世界、限られてしまった人との接触、そんな中マーケットは、これまで以上に貴重なコミュニケーションの場となっています。

そんな人情あふれる街チェゼナですが、街の多くの小中高校はヨーロッパ各国との国際交流プロジェクトに参加しています。学生達は近い将来、日本と交流が出来る日が来ることを心待ちにしています。



パン職人のパオロ。小麦から栽培しています。この日は早朝にもかかわらず在庫わずか、人気店です。



牛、羊、ヤギのチーズ専門店。自家製ヨーグルトも販売。



マリレーナと息子のロレンツォ。農業なしのオーガニックです。土も虫も一緒についてきます...

県だより

News from Prefecture

米国・シンガポール向けに現地ECサイトで県産品を販売しています！

茨城県営業戦略部グローバルビジネス支援チーム・主事 鈴木 龍蔵

新型コロナウイルス感染症の影響で世界的にEC（電子商取引）サイトの市場規模が急拡大する中、昨年12月、茨城県では米国とシンガポールの現地ECサイトにおける県産品の販売及びプロモーションを開始しました。米国は中国に次ぐ世界第2位のEC市場規模を誇り、シンガポールはASEANへの拡大・展開を見据えた多くのECサイト運営企業が進出しており、両国とも市民生活にECが広く浸透しています。このような状況を踏まえ、茨城県では公益財団法人いばらき中小企業グローバル推進機構や独立行政法人日本貿易振興機構茨城貿易情報センターと連携しながら、ECを活用した県産品の海外販路開拓支援を行っています。

米国向けには、肌ケア用スポンジ、環境配慮型の洗剤、銅合金製の打楽器など、現地ニーズが見込まれる日用品や雑貨を中心とした10点を販売しています。これらの10点については、GoogleやFacebookにおいて広告配信を行うほか、米国EC最大手の「アマゾン」でも販売を行っています。また、ECサイトの商品ページには、英語による動画を制作して掲載するなど、商品の良さを分かりやすく伝えるための工夫をしています。

また、シンガポール向けには、「mogushop」や「Lazada」などの日本食品に強みを持つECサイトにおいて、納豆、しょう油、梅酒など、各ECサイトのバイヤーが選定した加工食品や酒類を40点以上販売しています。販売促進に向けては、ECサイト内に広告バナーを掲載するほか、現地メディアへの広告掲載、さらには商品紹介と即時販売を組み合わせたライブ動画の配信（ライブコマース）などを行っています。

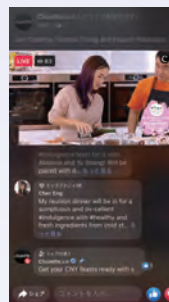
茨城県では、今後も関係機関と連携しながら、オンラインと対面での営業を組み合わせ、県産品の海外販路開拓に注力してまいります。



米国向けECサイトではアルミニウムの蝶ネクタイなどを販売



シンガポール向けECサイトでは健康を意識した食品などを販売



商品紹介のライブ動画配信（ライブコマース）

for you...

日本人に母国の文化を教えてください

茨城県国際交流協会では、学校の授業やイベントで母国の紹介や児童・生徒等と交流する外国人講師を募集しています。特別な資格はいりません。

こんな人はぜひ！

- 人とふれあうことが好き
- 自分の国・地域のことをもっと知ってほしい
- ボランティア活動をしたい
- 日本語で日常会話ができる人

日時は相談できます。
協会のルールにより、謝金、交通費をお支払いします。
ご興味のある方は当協会（ワールドキャラバン担当）までご連絡ください。



茨城県留学生親善大使を募集します

国際交流活動に意欲があり、県内の学校などで母国について紹介できる外国人留学生を「茨城県留学生親善大使」に任命します。（2021年6月頃に任命式開催予定）

興味のある方は、ぜひ当協会のホームページをご覧ください。



賛助会員を募集しています！

当協会では、茨城県に在住する外国人の皆様が安心して生活できるよう、多言語による相談事業や情報提供などを実施し、外国人の皆様にも住みよい地域づくりに努めています。また、より多くの県民の皆様が外国の方々と交流し相互理解を深める機会を提供するために、留学生や在住外国人の方々、交流団体の皆様と連携し、様々な交流事業も展開しています。

皆様からのご支援のもと、さらに充実した活動を続けて参りたいと存じますので、賛助会員へご加入いただき、お力添えください。

会員になると、機関紙「ふれあい茨城」の送付、各種イベント等情報の提供、協会施設の優先利用、提携旅行社の割引などの特典があります。

また、賛助会員は、公益法人への寄付として申告により所得税や法人税の優遇措置の適用を受けることができます。

皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

賛助会費	団体会員	1口 10,000円/年
	個人会員	1口 3,000円/年

※賛助会特典、税金の優遇措置の詳細については、当協会HPをご覧ください。



令和2年度使い残した年賀状で国際協力しよう！集計結果

令和2年度の書き損じハガキ等の集計結果は右記のとおりとなりました。

今年は継続して国際協力活動を行っている団体等のほか、特に、紛争などにより医療体制が脆弱な途上国での新型コロナウイルス感染症に対応する活動に寄付をさせていただきました。皆様のご厚意に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

- ・書き損じハガキ 2,260枚
- ・使用済切手 約14.0キログラム
- ・未使用切手 15,579円分
- ・使用済テレホンカード 1,030枚
- ・外国紙幣 161枚
- ・外国コイン 約10.4キログラム
- ・現金類 27,611円

寄付先：茨城キリスト教学園キリスト教センター
特定非営利活動法人 シェア
特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター
茨城県ユニセフ協会、日本ユニセフ協会

JICA海外協力隊2021年春募集のお知らせ

JICA海外協力隊2021年春募集を実施予定です。（5/20～6/30）

今回の応募を考えている方はもちろん、

- ・いつか応募してみたい！
- ・JICA海外協力隊の概要説明を知りたい！
- ・開発途上国について知りたい！
- ・JICA海外協力隊って、どんな活動があるの？

などJICA海外協力隊に関心のある方、是非、JICA茨城デスクまでお問い合わせください！

（JICA海外協力隊HP→<https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html>）

問合せ JICA茨城デスク
E-mail : jicadpd-desk-ibarakiken@jica.go.jp
TEL : 029-241-1611（公財）茨城県国際交流協会内



●令和2年度 団体賛助会員（令和3年1月末現在）

石岡商工会議所
「茨城アジア教育基金」を支える会
いばらき印刷 株式会社
一般社団法人 茨城県医師会
公益財団法人 茨城県開発公社
茨城県火災共済協同組合
一般財団法人
茨城県環境保全事業団
茨城県行政書士会
一般社団法人 茨城県経営者協会
一般財団法人
茨城県建設技術管理センター
一般財団法人 茨城県建設技術公社
茨城県市長会
社会福祉法人
茨城県社会福祉協議会
茨城県商工会議所連合会
茨城県商工会連合会
茨城県女性のつばさ連絡会
茨城県信用組合
茨城県信用保証協会
茨城県青年海外協力隊を育てる会
茨城県世界青少年コミュニ
ケーションクラブ（WYCCI）
茨城県中小企業団体中央会
茨城県町村会
茨城県日中友好協会
公益社団法人 茨城県薬剤師会

株式会社 茨城ポートオーソリティ
鹿嶋国際交流JCサークル
鹿嶋市開発 株式会社
鹿嶋埠頭 株式会社
鹿嶋臨海通運株式会社
鹿嶋臨海鉄道株式会社
神栖市国際交流協会
韓国語上級講座
北茨城国際交流会
古河市国際交流協会
国際ソロプチミストつくば
コスモエコー
コトブキ印刷 株式会社
JA茨城県中央会
株式会社JTBB
下館商工会議所
株式会社 常陽銀行
常陽保険サービス 株式会社
昭和建設 株式会社
鈴鐘工業 株式会社
株式会社 セイキョウ
関影商事 株式会社
センター印刷 株式会社
株式会社 高野高速印刷
筑西市国際友好協会
チョウ サラン
株式会社 筑波銀行

※敬称略

株式会社 つくば研究支援センター
電機連合茨城地方協議会
那珂市国際交流協会
日本原子力発電 株式会社
東海事業本部 地域共生部
日本語学校つくばスマイル
日本労働組合総連合会 茨城県連合会
ネパール子ども奨学支援会
ハンブルク初級教室
ハン サラン
常陸大宮市国際交流協会
日立商工会議所
株式会社 ひたちなかテクノセンター
ビバ エル エスパニョール
広沢商事 株式会社
ふじの会
フレンドリーあんず
フレンドリージャパンワールド
水戸市国際交流ふれあいの会
水戸商工会議所
水戸信用金庫
水戸ユネスコ協会
メックス 株式会社
メサフレンドシップ
株式会社 めぐりス
ラフニール
ワタヒキ印刷 株式会社
他1社 計79団体

皆様のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

事業ボランティアを募集します

茨城県国際交流協会が主催する「外国人による日本語スピーチコンテスト」などの事業を通して、国際交流、国際協力活動のお手伝いをしていただくボランティアを令和3年度も募集します。詳しくは、当協会のホームページをご参照ください。



Said & Did

令和2年度(公財)茨城県国際交流協会 日本語教育アドバイザー派遣事業

この事業は、県内の日本語教室がボランティア講師のための研修を実施する際に指導者を派遣することで、ボランティアの質の向上・育成を図ることを目的に毎年実施されているものです。

今年度は、初級日本語ボランティア講座開催の3団体とレベルアップ講座開催の3団体に講師を派遣しましたが、うち3団体がコロナ禍の影響により会場で開催できずオンライン開催となりました。

また昨今、茨城県でも日本語がわからない外国籍の児童・生徒数が増加傾向にあることから、当協会にて「外国人児童・生徒に対する日本語教育支援者養成講座」をオンライン開催しました。長年つくば市で外国籍の子どもたちに日本語を教えていらっしゃる吉田麻子氏(つくば市風の会代表)を講師としてお迎えし、全3回の講座に日本語ボランティア講師、教職員、市町村職員など各回約50名の皆様に参加されました。

受講者からは、「講師の豊富な経験に基づく説明は具体的でわかりやすく、今後の支援や活動の参考になった」「子どもたちの立場や境遇についての理解がより深まり、彼らとの関わり方を考える上で非常に役に立つ」などの感想をいただきました。

今後も機会があればこのような講座を開催していきたいと思います。



外国人児童・生徒に対する
日本語教育支援者養成講座
(オンライン開催)

初級日本語ボランティア養成講座



令和2年度 国際理解教育講師等派遣事業 (ワールドキャラバン)

国際理解教育のため、県内の小・中・高・特別支援学校、生涯学習団体等に、外国人講師等を44団体、50件派遣しました。

コロナ禍における取り組みとして、今年度はオンライン交流も実施しました。

学校からは、「なかなか交流事業を実施しにくい状況ですが、児童にとっては非常に貴重な体験となり、とてもありがたかった」「コロナ対策のため物的な交流ができなかったが、講師の先生が児童にも分かるような紹介を行ってくれたため、よく理解することができたと思う」などの感想をもらいました。

また外国人講師の皆様からは、「興味を持って真剣に聞いてくれる学生たちに感動しました」「学校もコロナ対策をきちんとしてくれたので、安心して交流することができました」などの感想をもらいました。

令和3年度の事業(派遣申請等)については、準備でき次第当協会ホームページに掲載予定です。



ワールドキャラバン(オンライン交流の様子)

留学生のための災害理解講座

『(公財)中島記念国際交流財団助成』
(独)日本学生支援機構留学生地域交流事業

県内の大学等で学ぶ留学生が、日本で起きる自然災害について理解を深め、日ごろの備えも心がけてもらうことを目的に開催しました。講師は防災科学技術研究所からきたDr.ナダレンジャーと助手のナダレンコです。参加者は留学生、当協会語学サポーターや外国人支援に関心がある日本人等です。コロナ禍のため、オンライン開催としました。

ナダレンジャーがモデルを用いて防災科学実験を行い、災害の発生メカニズムなどについて、楽しくそしてわかりやすく解説しました。その後、当協会より防災持出し袋の説明、茨城県より多言語防災情報について説明しました。留学生からは「自分の国でこんな防災教育はあまり受けていませんでした。今回よく勉強しました」「今後コロナが抑えられたあと、オンラインではなく現場で体験できたら最もよいと思います」などの感想がありました。



災害理解講座

令和2年度外国人のための 電話・ビデオ通話による休日無料弁護士相談

毎年、在住外国人の抱える複雑な問題を解決するために県西・県南地域で無料弁護士出張相談を行ってきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりその開催がなかなか難しい状況にありました。しかし、県内で専門的なアドバイスを必要とする外国人の方々に例年通り相談の機会を提供するという観点から、対面形式ではなく電話およびビデオ通話等で相談を受ける準備を整え、10月4日と11日(日)に「外国人のための電話・ビデオ通話による休日無料弁護士相談」を実施しました。

今回は、タイ、スリランカ、パラグアイ、ベトナム、中国、アメリカ、ブラジルなど9か国12グループの方々より、夫婦間・親子間の問題、労働問題、交通事故に関する問題など14件の相談がありました。相談は通訳を交えて行われ、相談者の方々は、母国語で相談し、弁護士の先生の法的なアドバイスも母国語で受けることができました。



一日無料弁護士相談